



カレブ通信

2017年12月21日
第46号

内容

1 「ひたちカレブの会」立ち上げ報告

江波戸啓悟

2 カレブ ストーリー1

「車いすで自由と希望と愛を届ける」 谷 雅史

3 カレブ ストーリー2

「主に触れられて」

穂森宏之

「カレブ ストーリーとは」

「今や私は、きょうでもう85歳になります。・・・

モーセが私を遣わした日のように、今も壮健です」

(ヨシュア記14章)と、信仰によって主の御心を成し遂げたいと願うカレブの熱い思いが「カレブの会」のスピリットです。

「カレブ通信」には、現代のカレブとして歩む人々のさまざまな日常の物語りが綴られています。



1 「ひたちカレブの会」立ち上げの報告

江波戸啓悟

1) 「ひたちカレブの会」立ち上げの経過

超高齢化は教会も例外ではなく、老人問題を抱えています。そこで当事者である我々シニア世代が、まず学び、語り合う場として「福祉カフェ」を企画しました。日本基督教団日立教会の有志が実行委員会を立ち上げ、近隣の教会に呼びかけました。

まず茨城キリスト教学園のチャプレン、野口良哉師が賛同下さり学園内キリスト教センターと共催になりました。会場は学園内キアラ館を無料で提供下さいました。また当企画は「大好きいばらき応援事業」に応募し、審査をパスして、助成金10万円を得、茶器や備品をそろえました。

第1回の「福祉カフェ」は8月1日、ナザレ園元施設長、菊池潔氏を迎えました。この時には「宇都宮カレブの会」から小川吾朗氏ほか3名の応援を頂き大いに励まされました。参加者はボランティアを含め43名でした。

11月7日、第4回「福祉カフェ」には、小川吾朗氏から「幸せのエンディングサイン」をお話し頂き好評でした。質疑の際、「カレブの会」について関心ある質問が相次ぎました。実行委員会でも、「カレブの会」の目的と「福祉カフェ」の趣旨が重なり、各地の「カレブの会」とつながる事は望ましい、との意見が大勢でしたので、「ひたちカレブの会」として加えてもらうことになりました。

2) 世話人代表： 江波戸啓悟

世話人会メンバー：石塚猛 石塚初子 安藤司文 佐々木洋 野口良哉 高橋庸一

3) 会の特徴：超教派のクリスチャンとキリスト教に理解ある方を対象に、幸いな老後を目指して学び合い、絆を深め合う。日立市にキリスト教主義の福祉施設を実現する目標を持つ。

4) 活動内容：「福祉カフェ」を毎月1回、開催する。高齢者福祉のエキスパートを招き、そのお話を基に活発な意見交換をなし記録に残す。毎回、抹茶を用意して希望者には茶道のおもてなし体験ができる。くつろいで、生の音楽演奏や手話での合唱を楽しむ。



質疑応答の時間



世話人会メンバー

2 カレブ ストーリー (1)

車いすで自由と希望と愛を届ける

谷 雅史



谷雅史ご夫妻

長男が小1の時交通事故に遭ったのをきっかけに40歳で受洗。会社人生でシンガポール、アメリカ、タイ合計12年の海外生活経験が、第2の人生に活かされています。NPO法人「希望の車いす」理事長、武蔵福音自由教会会員

心に傷の無い人はいないと思います。私も人の信頼を失い苦しんだことがあります。部下に訴えられたり、ミスを犯して閑職に追いやられたり、、、絶望の日々でした。いつも変わらずに支えてくれたのは家内です。ある時友人が松原湖のキャンプに誘ってくれました。そこでカウンセリングを受けて自己中心の考え方と甘えを指摘され、御言葉と賛美と交わりで心が洗われ、悔い改めて出直すことができました。欠けの多い私をイエス・キリストは愛して素晴らしい出会いに導いてくださいました。

リタイア後の人生は、NPO法人「希望の車いす」を通じて神様の愛を分かち合っています。使われなくなった車いすを集めて再生して磨き上げ、信頼できる海外パートナーを通じて、東南アジアの困っている方々に無償で寄贈します。車いすなどとも買えない人に夢のようなプレゼントが届いたインパクトは想像以上です！自由と希望と愛が届きます！整備・磨きのボランティア、支援者、パートナー達の善意が繋がって、沢山の奇跡のストーリーが生まれています。

フィリピンのアラン君21歳は小児麻痺で歩けません。両親に見捨てられ祖父母と森で暮らしていたので読み書きも出来ません。近所の牧師が車いすを届け、工事現場で働き始めましたが、やがて現場が移動して失業しました。あるクリスチャン家族が彼を引き取り小学校に掛け合い、特殊クラスに編入できました。とても熱心に学んでいます。



カンボジアのチレブさんはポルポト兵に背骨を強打され歩けなくなりました。兄弟に会うために這って出かけて力尽き道端で倒れていたところを乱暴されました。車いすを貰って安心して好きな所に行けるようになって大喜びです。(写真左)

毎年ボランティアの有志を募り東南アジアを訪問して車いすを寄贈します。田舎に行くと自然のリズムで助け合って暮らす人々の姿、貧しくても笑顔がある心豊かなコミュニティがあります。日本は便利で豊かになりましたが、神様が創造された自然のリズムからかけ離れ、人も社会も疲れ切っています。科学万能、効率・成果主義、拝金主義、快楽主義がはびこり、貧富の差は拡大し、愛は枯れてしまいました。人は愛し愛されないと生きていけないのに。

カレブの会の来間兄弟、吉野兄弟の紹介で今年1月ヤンゴンのチョウさん(2月に急逝)を訪ねて寄贈を約束しました。そして12月に約束通りコンテナで125台送ることが出来ました。2002年に活動開始して以来の累計寄贈は2200台を超えました。

「希望の車いす」の作業場所は聖書キリスト教会が無償で提供してくださっています。様々な年齢、経歴のボランティアが手弁当で参加し、心を込めて磨き上げ大切なプレゼントに仕上げられています。昨年来、頼れるベテランがリタイアし始めたので、新たな仲間を祈り求めています。車いす一台送るのに1万円強が必要です。(部品・整備用品代、輸送費、光熱費、広報費、管理・人件費) 主の導きを信じて祈りつつ励んでいます。



カンボジアのチレブさん

日本は便利で豊かになりましたが、神様が創造された自然のリズムからかけ離れ、人も社会も疲れ切っています。科学万能、効率・成果主義、拝金主義、快楽主義がはびこり、貧富の差は拡大し、愛は枯れてしまいました。人は愛し愛されないと生きていけないのに。

お問い合わせ先：
mtaniwoh@gmail.com

「いつまでも残るものは、信仰と希望と愛です。」(第1コリント13:13)

3 カレブ ストーリー (2)

主に触れられて

穂森宏之

主に仕え従う事は、最高の喜びであり人生の究極の生き方です。私は、恵みと憐れみにより信仰が与えられて 45 年、文書伝道に生かされて 43 年、出版社を起業して 16 年になりました。いま、最も大切な事として思うことは、主と共に益々熱心に生きる事だと強く確信させられています。「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」マタイ 6:33 本質からぶれない生き方、主から目を離さない生き方が、近道であり最善最高です。それでは、その事を次の三つのポイントに絞ってお証します。

1) 主は、永遠に変わらない方です。

世は、日々刻々と移り変わりますが、神の約束は変わりません。人の生きて来た道や経験は様々であり、主に出会う時や環境の違いもありますが、恵みによって救われた者の生き方は共通しています。それは、主から与えられた約束は、必ず成し遂げられると信じる事です。「イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。」ヘブル 13:8 救われてから、月日は過ぎましたが、誠に主は変わらないお方であり、約束された通り事を成されるお方です。

2) 主は生きて働いてくださる。

イーグレープを起業し、学び得た宝物とは一体何だったのでしょうか。その道信じ、チャレンジして、与えられた真実は、共に生きて共に歩いて下さる、そして、常に一緒下さるという事でした。

16年の間に「どん底」を味わい、その「どん底」とは、私が実にみじめで欠けの多い人間であるかを気付かされたと言うことです。そのような中で生ける神を見出し、共に歩んで下さる真実なる神様に会いました。その時からです、少しずつ薄日が差し込みはじめ、今日まで道が開かれ続けております。正に、栄光は主の物、恥は我が物の境地です。「ところが、あなたは信仰を捨て、神に祈ることをやめている。」ヨブ 15:4 形の上では、信仰は捨てずとも歩みは真の信仰者の姿からは遠い者でした。恵みにより、悔い改め、立ち戻ることが出来た時に、ふと気づきが与えられ、我に立ち返る事が出来たのです。イエス様の十字架上の言葉として「そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。」ルカ 23:34 その時の、彼らとは私であったのです。更に、状況としては、「人々が、この出来事を見に来て、イエスのそばに来たところ、イエスの足もとに、悪霊の去った男が着物を着て、正気に返って、すわっていた。人々は恐ろしくなった。」ルカ 8:35 のような感じです。「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっています。」ガラ 2:20

3) 試練はあります。しかし、主の祝福に必ず繋がる

真の希望と確信に近づくことの出来る言葉は「試練」です。「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。」ヤコブ 1:2 「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」ピリ 4:6 あなたの上に、祝福がありますようにお祈りします。アーメン



穂森宏之

(有)イーグレープ代表取締役

主な経歴と職歴:

1953年11月鹿児島県始良市に生まれる。

1975年2月いのちのことば社入社

2001年12月いのちのことば社退職

2002年1月(有)イーグレープ社設立、現在に至る

世は、日々刻々と移り変わりますが、神の約束は変わりません。人の生きて来た道や経験は様々であり、主に出会う時や環境の違いもありますが、恵みによって救われた者の生き方は共通しています。それは、主から与えられた約束は、必ず成し遂げられると信じる事です。「イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。」ヘブル 13:8



お問い合わせ先:
e@e-grape.co.jp

